

イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年12月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、11/3のWTI原油は、先週比5.03ドル安の80.51ドルとなりました。中国国家統計局が今週に公表した10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.5と、2カ月ぶりに景気の拡大・縮小を判断する節目の50を下回る内容。世界最大の石油輸出国である中国の景気が落ち込めば、原油需要にも影響するとの見方から売りが優勢となった。

●第2週、11/10のWTI原油は、先週比ドル3.34安の77.17ドルとなりました。需要見通しに警戒感が広がる中、相場は8日には清算値ベースで3カ月半ぶりの安値まで落ち込んだ。この水準では短期間で急速に売られ過ぎたとの見方が広がり、9日以降は安値を狙った買いが優勢。10日もこの流れが継続した。また、投機筋がショートカバーを強めたとの見方もあった。外国為替市場では、対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油相場を支えた。

●第3週、11/17のWTI原油は、先週比1.28ドル安の75.89ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)が15日に公表した週報は、米国の原油在庫が予想を大きく上回る積み増しとなり、過去最大の生産ペースを維持していることを示す内容。中国などの景気停滞に伴う需要先細りへの見方も重なり、需給の緩みに対する警戒感が強まった。しかし、この日は売られ過ぎとの見方から、週末を前に買い戻しが活発化。相場はドルの軟調を追い風にほぼ1本調子で上昇し、終盤には76ドル付近の水準を回復した。

●第4週、11/24のWTI原油は、先週比0.35ドル安の75.54ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)と非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は22日、26日に予定していた閣僚級会合の開催を30日に延期すると発表。同会合では、来年以降の減産延長や減産幅の拡大が決定されるとの観測が広がっていたが、想定外の延期の発表を受け、先行き不透明感を嫌気した売りが活発化し、22日の相場は一時5%超急落した。

	11月平均	WTI原油	89.43ドル	前月比	77.38ドル	為替 1ドル	150.95円	前月差	0.35円
--	-------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
11/1	35.7	+3.5	+3.5
11/2~11/8	33.3	-2.0	-2.0
11/9~11/15	29.7	-2.5	-2.5
11/16~11/22	25.1	-4.0	-4.0
11/23~11/29	23.5	-0.5	-0.5
11/30	21.9	±0	±0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2023年7-9月C重油決定価格	92,950	94,950	92,950(メニュー)+2,000(プレミアム)
	2023年10-12月C重油仮価格	105,770	111,230	105,770(メニュー)+5,460(プレミアム)
	2023年10-12月C重油決定価格			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2023年7-9月C重油決定価格	100,400	109,600
	2023年10-12月C重油仮価格	116,630	
	2023年10-12月C重油決定価格		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	23/10	9桁速報	86,808	92.70	148.87	7,158
	23/11	最終予測	88,377	93.48	150.30	1,569
	23/12	展望	82,815	88.96	148.00	-5,562
	24/1	展望	78,101	85.63	145.00	-4,714

【次世代エネルギー】〈JAL、水素航空機スタートアップ企業3社と協業を開始〉

日本航空株式会社(以下「JAL」)は、飛行中のCO2排出量をゼロにすることができ、将来の持続可能な空の移動手段の1つとして期待されている、水素を燃料とする次世代航空機を日本の空へ導入することを目指す。

水素航空機の開発を行うH2FLY GmbH(本社:ドイツ)、Universal Hydrogen Co.(本社:アメリカ)、ZeroAvia Inc.(本社:アメリカ)のスタートアップ企業3社と、それぞれ基本合意書を締結しました。なお、水素航空機の技術面に関する検討・協力については、JALグループの航空機整備を担う株式会社JALエンジニアリングが進めています。今回の協業におけるターゲットは、水素を直接燃焼させるのではなく、水素と大気中の酸素の化学反応により発電を行う燃料電池と、電動モーターにより推力を得て飛行する航空機です。

JALグループは、CO2の排出量削減に関し、2050年までのカーボンニュートラルの実現を目標に掲げており、水素航空機や電動航空機といった新技術を使った航空機の将来的な導入に向けて幅広い検討を進めていますが、今回協業する各社は、水素を燃料の一部として使用した飛行試験をすでに実現し、2020年代半ば~2030年代に水素航空機の商用化を予定する、世界で水素航空機の開発をリードする存在です。

今回の基本合意書の締結により、日本国内での運航に求められる厳しい安全基準を満たし、水素航空機導入に向けた機運を醸成する。ナステイナブルな未来の空を創る活動を推進するとともに、日本の空への水素航空機の導入をリードしてまいります。

出典: 観光経済新聞 <https://x.gd/CSBzt>

【12月価格変動要因】

●需要: 中国の景況感は依然鈍いものの、あくまで緩やかな回復シナリオを予想。大規模な財政出動も検討されている状況下24年入り後の需要拡大が意識されるものの、あくまで期待感に過ぎず、実態の伴った見込みとなっていないのも事実。

労働市場を概観するに、過熱感は緩和方向に推移。失業率の上昇と労働供給増が賃金インフレを抑制。一方、失業率が今後も上昇を続けると景気後退入りを示す「サム・ルール」に抵触する可能性も。足元の水準でいくと次回の雇用統計で失業率4.0%となるとサム・ルールに抵触する水準となる。

●供給: 従来までサウジアラビア・ロシアの自主減産により原油市場の需給は引き締められてきたが、サウジアラビアは減産負担を他加盟国にも担わせたい思惑。一方でUAEや一部アフリカ諸国は増産の思惑もあり、これに反発している状況。一時は減産幅拡大も意識されたイベントであったが、OPEC加盟国間の亀裂が如実に表れる状況下、需給引き締めへの懸念は後退している。

●リスク資産・金融市場: イスラエル・ハマスの戦闘がガザ地区に限定されていることで地政学リスクは一部後退している状況。懸念されていた米つなぎ予算については、来年1月半ばまでの暫定予算に合意して走り出している状況。今般はマクカシー前下院議長の更迭に伴い就任したジョンソン下院議長の就任後初となる重要な採択となったが、就任後協議する時間も限られており、中東情勢の悪化も重なって半ば就任祝いのような形で合意に至った格好。米政府閉鎖リスクは来年に持ち越された状況だが、引き続き問題は残存しており、来年に米大統領選が控えるバイデン氏にとっては引き続き予断を許さない政局運営が求められる状況。

<1ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	87	82
Average	82	77
Low	76	71

<3ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	85	80
Average	80	75
Low	75	69

日付	国	12月経済指標カレンダー	日付	国	12月経済指標カレンダー
1	米国	11月ISM製造業景況指数	13	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
1	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言	14	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利
5	米国	11月ISM非製造業景況指数	14	米国	11月小売売上高
6	米国	11月ADP雇用統計	14	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
7	ユーロ	7-9月期四半期域内総生産	19	ユーロ	11月消費者物価指数
8	米国	11月非農業部門雇用者数変化	21	米国	7-9月期四半期実質国内総生産
8	米国	11月失業率	22	米国	11月個人消費支出
8	米国	11月平均時給	22	米国	11月新築住宅販売件数
12	米国	11月消費者物価指数			
13	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表			